

私たちの想い

私たちは、日常生活において全国共通の言葉を使うとともに、同時に昔ながらの地域の言葉も使っています。

しかし、地域の言葉は、近年の社会変化の中で失われつつあります。学校や社会、またマスメディアといった私たちを取り巻く共通語の環境が大きな原因となっていますが、都市化・近代化による自然との関わりをあまり必要としない社会生活や私たち自身の意識の変化等も影響を与えているものと考えられます。

亡き祖父母を思い起こすと、現在使われていない動植物の呼び名や天候等に関する表現を時折使っていたことが思い出されます。

生業として農林漁業が生活の中心であった時代にあって、人々は生活上の必要から自然と対話し、そこから様々な情報を得、自然の事象や動植物等を名づけてきました。そのようにして生まれてきた地域の言葉は、豊かな観察眼を背景としたものでもありました。それは情報を伝え、意思を通じるための道具であるだけでなく、自然等との様々な関わりの中で形作られた地域文化のひとつであるとも言えましょう。

しかし、そうした地域の文化とも言える言葉は、高齢者には多く引き継がれていますが、社会変化の中で次の世代に伝えられることなく記憶の彼方のものとなりつつあります。

当会では、これまで地域で培われてきた言葉がなくなりつつあると考え、昔の鈴鹿郡域を対象に、各集落の高齢者から自然の事象や動植物をはじめとした呼び名等の聴き取り調査を行うこととしました。そして、それを私たちの先人が培ってきた文化のひとつとして、記録に残していきたいと考えています。

こうした記録が私たちの住む地域を考えるきっかけとなるとともに、地域に対する関心を高めるものとなることを願います。

鈴鹿の国方言研究会